

「話し手情報・聞き手情報」と文末形式 —日本語と中国語の場合—

井上 優

1 はじめに

木村・森山(1992)は次のことを示した論文である。

- (1) 日本語も中国語も、情報のやりとりに関わる文（いわゆる平叙文、確認文、質問文、疑念表出文）の関係は、「話し手情報の確定・不確定」および「聞き手情報への依存・非依存」という2つの観点により体系的に記述できる。

木村・森山(1992)の記述の枠組みは一般性が高く、情報のやりとりに関わる文のタイプの関係を見通しよくとらえることができる。しかし、一般性が高い分、これらの文のタイプの使い分けに関する日本語と中国語の相違（後述）は説明しにくいところがある。

本論では、木村・森山(1992)の枠組みを出発点として、情報のやりとりに関わる文の使い分けに関する日本語と中国語の相違を体系的にとらえることを試みる。

2 木村・森山(1992)の議論の概略

木村・森山(1992)の議論の範囲は、細部を含めればかなり広い範囲に及ぶ。ここでは、木村・森山(1992)の議論の根幹部分について概略的に説明する。議論の対象となる表現形式も多岐にわたるので、議論の根幹部分に影響しない範囲で限定する。

木村・森山(1992)で議論の対象は次の4つの文タイプである（例文は井上）。((5b)の中国語の文末助詞“呢 ne”の用法は多岐にわたるが、ここでの逐語訳は「疑念」とする。)

①無標平叙文（無標の確定情報文：いわゆる平叙文）

- (2) a. これはあなたのです。
b. 这 是 你 的。
 これ だ あなた の

②有標平叙文（有標の確定情報文：いわゆる確認文）

- (3) a. これはあなたのでしょうか（あなたのですね、あなたのですよね）？
b. 这 是 你 的 吧？
 これ だ あなた の だろう

③無標疑問文（無標の不確定情報文：いわゆる質問文）

- (4) a. ここはどこですか？
 b. 这 是 什么地方？
 ここ だ どこ

④有標疑問文（有標の不確定情報文：いわゆる疑念表出文）

- (5) a. おかしいな。今ごろ何だろう（何かなあ）？
 b. 真 奇怪，现在 叫 我去 有 何 公干 呢？
 実におかしい今 呼ぶ私 行くある 何 用件 疑念

（官僚たちの夏／官僚们的夏天，木村・森山 1992：「何かなあ」を追加）

本論では、議論の便宜上、この4つの文のタイプを「無標平叙文」「確認文」「無標疑問文」「有標疑問文」と呼ぶ。「有標平叙文」を「確認文」と呼ぶのは、そのほうが直感的にわかりやすいからである。また、「質問文」「疑念表出文」という用語を用いないのは、日中両語の無標疑問文と有標疑問文の使い分けを説明するのに、「質問文」「疑念表出文」という名称は不便な部分があるからである（後述）。

木村・森山(1992)は、日本語も中国語も、無標平叙文、確認文、無標疑問文、有標疑問文の関係は「話し手情報の確定・不確定」，「聞き手情報への依存・非依存」という観点により、次の(6)のように整理できるとする（表は簡略化している）。

(6)

話し手の 情報 聞き手 情報への態度	確 定	不確定
依 存	有標平叙文（確認文）	無標疑問文（質問文）
非依存	無標平叙文（平叙文）	有標疑問文（疑念表出文）

「話し手情報の確定・不確定」とは、話し手の中で当該判断以外の判断が排除されているか（話し手情報確定）、複数の判断が併存しているか（話し手情報不確定）ということである。また、「聞き手情報への依存・非依存」とは、表層的には、聞き手に情報提供を求めるとか（聞き手情報依存）、求めないか（聞き手情報非依存）ということである。

疑問文は、「行きますか、行きませんか?」、「誰が行きますか? (x_1 が行きますか、 x_2 が行きますか、 x_3 が行きますか…)」のように、話し手の中で複数の判断が併存状態にあることを述べる「話し手情報不確定」の文である。無標疑問文は聞き手に情報提供を求める「聞き手情報依存」の疑問文、有標疑問文は話し手の疑問を表出するだけの「聞き手情

報非依存」の疑問文として位置づけられる。中国語では、文末助詞“呢 ne”を付加した疑問文が有標疑問文に相当するとされる（例 5）。

無標平叙文は、話し手の中で当該判断以外の判断が排除されており、聞き手にも情報提供は求めない「話し手情報確定・聞き手情報非依存」の文である。

確認文（有標平叙文）は、聞き手に情報提供を求める点は無標疑問文と同じだが、当該判断以外の判断が排除されている（「*行くでしょう、行かないでしょう?」「*行きますね、行きませんか?」、*誰が行くでしょう?」「*誰が行きますね?」のように言えない）という点は無標平叙文と同じなので、「話し手情報確定・聞き手情報依存」の文となる。

「平叙文・質問文＝無標の平叙文・疑問文」、「確認文・疑念表出文＝有標の平叙文・疑問文」という関係は、次のような一般原則として説明される。

(7) I a 不確定情報文の聞き手情報依存の原則

無標の不確定情報文は、伝達的環境にある限りにおいて、聞き手が当該情報を保持していると見なすものであり、話し手はそれに依存することを表す。

b ずらしの原則（1）

不確定でありながら、聞き手の情報に依存しない場合には、聞き手の情報に依存しないという形式を付与しなければならない

II a 確定情報文の聞き手情報非依存の原則

無標の確定情報文は、聞き手が当該情報を保持していないものとして扱うものであり、話し手が聞き手の情報へ依存しないことを表す。

b ずらしの原則（2）

確定情報でありながら、聞き手の情報に依存する場合には、聞き手の情報に依存するという形式を付与しなければならない。

I a・II a の原則は、話し手の側で情報が確定している（確定していない）ことを聞き手に示すことは必然的に聞き手に対する情報提供（情報要求）につながるということを述べたものである。また、I b・II b の「ずらしの原則」は、聞き手に対する情報提供（情報要求）をおこなうわけではない場合はそのことを示す形式（「だろう、かな」、「吧、呢」など）を付加する必要があるということを述べたものである。

3 木村・森山(1992)の整理の問題点

木村・森山(1992)の記述の枠組みは一般性が高く、日本語・中国語以外の言語にも適用可能と見られる。しかし、その一方で、(6)の記述の枠組みは、無標平叙文、確認文、無標疑問文、有標疑問文の使い分けに関する言語間の相違を説明するようには必ずしもできて

いない。議論の中で「運用的な問題として、聞き手の情報に依存・非依存することを示すべき状況についてはそれぞれの言語において大きく異なるであろう」と述べられたり、日本語と中国語の文の述べ方について(8)のような見通し(井上・黄 2014でも日本語と中国語の文末助詞の意味について同じ趣旨の見通しを述べている)が示されたりしているが、(6)の枠組みとの関係については必ずしも述べられていない。

- (8) a. 日本語では、文の述べ方の選択に際しては聞き手の認識が尊重される。
b. 中国語では、話し手の認識が文の述べ方の選択の基準になる。

以下、第4節から第6節では、無標平叙文、確認文、無標疑問文、有標疑問文の使い分けに関する日本語と中国語の相違がいずれも(8)の相違に由来することを述べ、第7節ではその相違が「聞き手に対する指示の意味を含むか否か」という相違に還元される可能性があることを述べる。

4 平叙文と確認文(有標平叙文)の使い分け

まず、無標平叙文と確認文(有標平叙文)の使い分けについて述べる。

神尾(1990)は、日本語の無標平叙文(神尾 1990の用語では「直接形」)について、「話し手のみが情報を自己のなわばりに持つという意味での情報の独占化とも言うべき特徴を持つ」と指摘している。木村・森山(1992)も、「確定情報を相手に伝達するということは、聞き手において、その情報がないというのが典型的な伝達状況である。(略)日本語では、運用的な問題として、この条件が厳しい」と述べている。これはつまり、日本語の無標平叙文は「聞き手が持っていない情報を提供する」という意味が明確だということである。そのことは中国語の無標平叙文と比較しても明らかである(井上 2013)。

(9) (生徒たちの点呼が終わり全員そろったことを確認して)

- a. はい、全員そろいましたね。出発しましょう。 [確認文]
b. はい、全員そろいました。出発しましょう。 [無標平叙文]
c. 好，大家 都 到齐了。出发 吧。 [無標平叙文]
はい 全員 すべてそろった 出発 意向

(9)は、「全員そろった」ことは話し手も聞き手もわかっているという場面である。この場合、日本語では「ね」を用いた確認文(9a)を用いるのが自然である。この場面で無標平叙文(9b)を用いると、発話現場で起こっていることを判断する権利を話し手が独占しており、聞き手に対して「全員そろった」ことを宣言するという意味になる。(9a)では、そのような意味が生ずるのを避けるために「ね」を用いているところがある(神尾 1990の言

う「協応的態度」の表示)。

一方、中国語の無標平叙文(9c)は、話し手がある場で認識したことを述べるだけで、判断の権利を独占的に有する話し手による宣言というニュアンスはない。日本語訳としては、「全員そろいましたね」が適切である。(10)のように確認文を用いると、話し手が「全員そろったことを確認したい」として聞き手に確認をおこなう文になる。

(10) (点呼が終わったところで、全員そろったことを再度確認する)

大家 都 到齐了 吧? 好, 那就 出发 吧。 [確認文]

みな すべて そろった 確認 はい それでは 出発 意向

(全員そろいましたよね? (そうですね?) はい、では出発しましょう。)

無標平叙文と確認文の使い分けに関する日中両語の相違は、次のように整理できる (井上 2013)。

(11)

		日本語	中国語
話し手に情報あり	聞き手に情報なし	無標平叙文	無標平叙文
	「聞き手に情報なし」未確定	確認文	
「話し手に情報あり」未確定			確認文

無標平叙文と確認文(有標平叙文)の使い分けは、日本語では聞き手側の情報のあり方によって決まるが、中国語では話し手側の情報のあり方によって決まる。

日本語の無標平叙文は、聞き手に対して「当該情報を(聞き手の側で確認せずに)そのまま受容する」よう指示する文である。また、日本語の確認文は、当該の判断が話し手だけの判断ではないことを確認したいとして、「当該の判断について聞き手の側で確認する」よう指示する文である(井上 2016 予定)。無標平叙文は聞き手に対して無条件の情報受容を指示する文であることから、その使用は「聞き手に情報がない」場合(聞き手に判断する権利がない場合を含む)に限られる。何らかの形で「聞き手に情報がある」と見込まれる場合は、聞き手に対して無条件の情報受容を指示できず、確認文を用いて聞き手に当該情報にアクセスするよう指示することになる。

一方、中国語の無標平叙文は、「話し手が当該情報を有している」ことを述べるだけの文である。「話し手に情報がある」ことが確定すれば、中国語では無標平叙文が用いられる。また、中国語の確認文は、「話し手の信念が現実と合致するかを確認したい」ということを述べる文である(井上 2016 予定)。それゆえ、確認文の使用は「話し手に情報がある」こ

とが確定しておらず、話し手の側で当該情報について確認が必要な場合に限られる。

5 無標疑問文と有標疑問文の使い分け

次に、無標疑問文と有標疑問文の使い分けについて述べる。

木村・森山(1992)は、日本語の有標疑問文は「聞き手情報に依存しない」ことの表示に重点があるが、中国語の有標疑問文は「話し手の〈はてな?〉と疑い、思い惑う気持ち」の表出に重点があることを指摘している。実際、日本語の有標疑問文は、情報提供を強制せずに「答えられるのであれば答えてほしい」という気持ちで質問する場合(例12)、あるいは「聞き手に答えられるかどうかわからないが」という気持ちでクイズを出題する場合(例13)にも使用可能だが(この場合、単純に「疑念表出文」とは言えない)、中国語の有標疑問文はこのような場面では不自然である。

(12) a. どちらさまでしょうか?

b. 您贵姓? / #您贵姓呢? (木村・森山 1992)

お名前は?

(13) 甲: わたし、四月に結婚するの。

乙: 誰と?

甲: さあ、誰とでしょうか?

你 猜一猜 和 谁? / #和 谁 呢? (木村・森山 1992)

あなた あててみる と 誰 と 誰

次の(14)は、話し手と聞き手がともに情報を持たず、聞き手による情報提供が期待できない場面である。この場合、日本語では有標疑問文を用いなければならない。一方、中国語では、(14)の場面で有標疑問文を用いるのは不自然であり、無標疑問文を用いなければならない(井上 2013)(この場合、単純に「質問文」とは言えない)。

(14) (ある夫婦が誘拐されて知らない場所に監禁された。夫が不安な気持ちで妻に)

a. #ここ、どこ? [無標疑問文]

b. ここ、どこだろう? [有標疑問文]

c. 这 是 什么地方 呀? [無標疑問文]

これ だ どこ 強調

d. #这 是 什么地方 呢? [有標疑問文]

これ だ どこ 疑念

有標疑問文(14d)が自然に使えるのは、(15)のように、それまで意識していなかった疑問

がその場で話し手の意識に上ったという場合である。中国語の有標疑問文が「〈はてな?〉と疑い、思い惑う気持ち」の表出に重点があるというのも、このことを指している。

(15) (久しぶりに故郷に帰って街を歩いていたら、見覚えのない風景に出くわした)

这 是 什么地方 呢? ((はて? 不思議だ) ここはどこだろう?)

これ だ どこ 疑念

無標疑問文と有標疑問文の使い分けに関する日中両語の相違は、次のように整理することができる (井上 2013)。

(16)

		日本語	中国語
話し手に情報なし	聞き手に情報あり	無標疑問文	無標疑問文
	「聞き手に情報あり」未確定	有標疑問文	
「話し手に情報なし」未確定			

無標平叙文と確認文の使い分けの場合と同様、日本語では無標疑問文と有標疑問文の使い分けは聞き手側の情報のあり方によって決まるが、中国語では話し手側の情報のあり方によって決まる。

日本語の無標疑問文は、「当該の問題について聞き手の側で情報を補う」よう指示する文である。また、有標疑問文は、「当該情報について聞き手の側で検討し、可能であれば不足情報を補充する」よう指示する文である。無標疑問文が用いられるのは、「聞き手に情報がある」ことが確定している（聞き手に情報提供を指示できる）場合に限り、それ以外の場合は有標疑問文が用いられる。

一方、中国語の無標疑問文は「当該の問題について話し手の側に情報がない」ことを述べる文、有標疑問文は「当該の問題について話し手の側に情報があるかどうか不明である」ことを述べる文である。「話し手には情報がない」ことが確定していれば、聞き手に情報があるかどうかに関係なく無標疑問文が用いられる。また、「話し手には情報がない」とまでは言えない場合は、有標疑問文が用いられる。

6 真偽疑問文と確認文（有標平叙文）の使い分け

日本語と中国語では、真偽疑問文と確認文（有標平叙文）の使い分けにも相違が観察される。その相違は、日本語の真偽疑問文と確認文は「現実に対する判断の確定・不確定」を基準に使い分けられ、中国語の真偽疑問文と確認文は「話し手の信念の確定・不確定」

を基準に使い分けられるという形で整理できる (井上 2016 予定)。

(17)

	話し手の信念	現実に対する判断	日本語	中国語
I	Pと信じて できない	現実にPかどう か判断できない	Pか?	P吗?
II	Pと信じて			P吧?
III		現実にPだと 判断される	Pだろう? Pよね?	

(井上 2016 予定)

ケース I は、現実にどうであるか (何が事実か) が不明であり、かつ話し手も P かどうか疑問に思っている (~P の可能性を排除していない) 場合である。この場合は、日本語でも中国語でも真偽疑問文が用いられる。

(18) (「これは聞き手のものではない可能性もある」と思って)

- a. これはあなたのですか?
- b. 这 是 你 的 吗?
 これ だ あなた の か

ケース III は、話し手が P と信じているだけでなく、「現実に P である」と判断している場合である。この場合は、日本語でも中国語でも確認文が用いられる。

(19) (「これはおそらく聞き手のものだ」「これは確か聞き手のものだ」と思って)

- a. これはあなたなのでしょう (あなたのですね, あなたのですよね) ?
- b. 这 是 你 的 吧?
 これ だ あなた の だろう

日本語と中国語でずれが生ずるのは、ケース II のように、「話し手は P と信じているが、現実にどうであるか (何が事実か) は不明」という場合である。

(20) (目の前で転んだ人を助け起こして)

- a. 大丈夫ですか? [真偽疑問文]
- b. #大丈夫でしょう? / #大丈夫ですよ? [確認文]

c. #不要紧 吗? [真偽疑問文]

問題ない か

d. 不要紧 吧? [確認文]

(井上 2016 予定)

問題ない だろう

(20)では、話し手は「聞き手は大丈夫だと信じる（聞き手の無事を願う）が、現実かどうかは不明である」という気持ちでいる。この状況で、日本語では「話し手は聞き手の無事を信じるが、現実にはどうか?」という気持ちで真偽疑問文「大丈夫ですか?」を用い、中国語ではこれと同じ気持ちで確認文“不要紧吧?”を用いる。

前述のように、日本語の確認文は、当該の判断が話し手だけの判断ではないことを確認したいとして、当該の判断について聞き手の側で確認するよう指示する文である。(20)の場面で「大丈夫でしょう? / 大丈夫ですよ?」を用いると、話し手が一方的に「大丈夫だ」と決めつけて、それを聞き手の側で確認するよう指示していることになり、トラブルに巻き込まれた聞き手に声をかける場面では不適切である。

一方、中国語の確認文は、「話し手の信念が現実と合致するかを確認したい」ということを述べる文である。(20)の場面で確認文“不要紧吧?”を用いても、話し手の決めつけにもとづく確認指示にはならず、むしろ話し手の「大丈夫であってほしい」という気持ちが感じられる発話になる。真偽疑問文“不要紧吗?”を用いると、「(このようなトラブルに遭って) 大丈夫なんですか?」のように、聞き手が無事であることを疑うような質問になり、この方がトラブルに巻き込まれた聞き手に声をかける発話としては不適切である。

この例に限らず、日本語で真偽疑問文を用いるところで、中国語では確認文が用いられることがよくある。次の(21)は、「聞き手は以前と変わらないと信じるが、現実にはどうか?」という気持ちの近況伺いだが、日本語では真偽疑問文、中国語では確認文が自然である。中国語で確認文が用いられる感覚は、日本語の手紙文で「お元気でおすごしのことと存じます」と書く感覚に通ずるところがある。

(21) (弁護士が、収監されている依頼人に)

a. 怎么样? 身体 还 好 吧?

どう 体調 変わらずよい だろう

(テレビドラマ「大法官」第 26 集, 2001 年: 杉村博文氏の教示による)

b. いかがですか? お変わりありませんか?

c. いかがですか? #お変わりないでしょう? / #お変わりないですよ?

7 日本語・中国語の無標平叙文，確認文，無標疑問文，有標疑問文の意味

第4節から第6節で述べた，無標平叙文，確認文（有標平叙文），無標疑問文，有標疑問文の使い分けに関する日本語と中国語の相違をまとめると，次のようになる。

(22)

無標平叙文	日本語	当該情報を（聞き手の側で確認せずに）そのまま受容するよう指示する。
	中国語	話し手が当該情報を有していることを述べる。
確認文 （有標平叙文）	日本語	（当該情報をそのまま受容するよう指示することはできないとして）当該情報について聞き手の側で確認するよう指示する。
	中国語	（話し手が当該情報を有するとまでは言えないとして）話し手の信念が現実と合致するかどうかを確認したいということを述べる。
無標疑問文	日本語	当該の問題について聞き手の側で不足情報を補うよう指示する。
	中国語	当該の問題について話し手の側に情報がないことを述べる。
有標疑問文	日本語	（当該の問題については聞き手の側で不足情報を補うよう指示することはできないとして）当該情報について聞き手の側で検討し，可能であれば不足情報を補充するよう指示する。
	中国語	（当該の問題について話し手の側に情報がないとまでは言えないとして）当該の問題について話し手の側に情報があるかどうか不明であることを述べる。

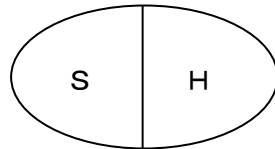
聞き手が存在する状況において，日本語の無標平叙文，確認文（有標平叙文），無標疑問文，有標疑問文は聞き手に対する指示の意味を含むが，中国語ではこれらの文は，聞き手が存在する状況にあっても，話し手側の情報のあり方について述べるだけの文である。木村・森山(1992)が「日本語では，文の述べ方の選択に際しては聞き手の認識が尊重される」，「中国語では，話し手の認識が文の述べ方の選択の基準になる」と述べていることも，実質的にはこのことを指すと見られる（聞き手不在の状況での発話については別途検討が必要である）。

このことと木村・森山(1992)の記述の枠組み（第2節）との関連について言えば，まず，「話し手情報の確定・不確定」および「聞き手情報への依存・非依存」という2つの観点だけでは，無標平叙文，確認文（有標平叙文），無標疑問文，有標疑問文の使い分けに関する日中両語の相違は説明できない。「不確定情報文の聞き手情報依存の原則」と「確定情報文の聞き手情報非依存の原則」も，そのままの形では中国語にはあてはまらない。日本語

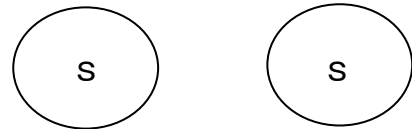
と中国語それぞれについて、「話し手情報」「聞き手情報」の内容をより具体的な形でとらえる必要がある。「ずらしの原則」は、最終的には「有標の平叙文・疑問文は無標の平叙文・疑問文が担う機能以外の機能を担う」というより一般的な形でとらえなおされることになる。これらの点に関する検討は今後の課題とする。

また、無標平叙文、確認文（有標平叙文）、無標疑問文、有標疑問文が聞き手に対する指示の意味を含む・含まないということは、日本語では「話し手領域」と「聞き手領域」が対立する中で情報のやりとりがおこなわれるが、中国語では実質的に2つの「話し手領域」があるだけであるという形で説明できる可能性があるが、この点についても詳細は今後の課題とする。

(23) a. 日本語



b. 中国語



引用文献

- 井上優 (2013) 「日本語と中国語の無標疑問文と有標疑問文の機能分担」, 木村英樹教授還暦記念論叢刊行会編『木村英樹教授還暦記念 中国語文法論叢』白帝社, pp. 197-212.
- 井上優 (2016 予定) 「日本語と中国語の真偽疑問文と確認文の意味」, 庵功雄・佐藤琢三・中俣尚己編『日本語文法研究のフロンティア (仮題)』くろしお出版
- 井上優・黄麗華 (2014) 「日中対照から見た中国語の文末助詞」, 小林賢次・小林千草編『日本語史の新視点と現代日本語』勉誠出版, pp. 248-262.
- 神尾昭雄 (1990) 『情報のなわ張り理論—言語の機能的分析—』大修館書店
- 木村英樹・森山卓郎 (1992) 「聞き手情報配慮と文末形式」, 大河内康憲編『日本語と中国語の対照研究論文集 (下)』くろしお出版, pp. 3-43